

JWF Water Journal



from Bali, Indonesia

編集協力 日本水道新聞社

第10回 世界水フォーラム 速報

Vol.1

2024年5月20日(月)

繁栄を共有するための水

Water for shared Prosperity

第10回世界水フォーラムが5月18～25日にかけてインドネシア・バリで開かれます。20日午前の開会式を皮切りに、議論が本格的にスタートしていきます。新型コロナウイルスの影響が国際社会で懸念されていた中、セネガル・ダカールで開かれた前回の世界水フォーラムから2年が経ちました。この間にも地球環境、そして国際社会は変化し、変化への対応が求められています。日本からも多くの関係者が出席し、バリから世界の水が動き出していきます。



第9回世界水フォーラム開会式(2022年3月 セネガル)

これまでの世界水フォーラムの開催地 参加国(地域)数と参加人数

	開催年	開催国・都市	参加国(地域)数	参加人数
第1回	1997	モロッコ・マラケシュ	63	500
第2回	2000	オランダ・ハーグ	114	5700
第3回	2003	日本・京都、滋賀、大阪	183	24000
第4回	2006	メキシコ・メキシコシティ	168	19700
第5回	2009	トルコ・イスタンブール	192	30000
第6回	2012	フランス・マルセイユ	173	35000
第7回	2015	韓国・大邱、慶州	168	40000
第8回	2018	ブラジル・ブラジリア	172	10000
第9回	2022	セネガル・ダカール	未発表	未発表
第10回	2024	インドネシア・バリ	17,000人以上(主催者発表)	

世界水フォーラムとは

世界水フォーラムは、国際NGOである世界水会議(WWC)と開催国との共同主催で、国連・世界水の日(3月22日)を開催期間の目安として3年に一度開かれています。定例的に開かれる水の国際会議では、世界最大規模を誇るものです。

政産官学、そして市民社会も加わりながら、世界中の水関係者が一堂に集い、水に関わるさまざまな課題について議論します。

ここでの議論は、さまざまな国際枠組みに大きな影響力を持ちます。例えばSDGs(国連・持続可能な開発目標)を実現する上で、

水からのアプローチは目標6(水と衛生)のみならず17目標のすべてに関連します。

こうした国際枠組みにおける動向は、国および地方自治の水ガバナンス、水に関わる企業活動にも確実に波及していくでしょう。

これまでも世界水フォーラムに集う世界の関係者の議論を通じた合意、考え方の表明は、国際社会の流れを方向づけてきました。

日本と世界水フォーラム

世界水フォーラムは1997年にモロッコ・マラケシュで初めて開催されました。63カ国・500人の参加で開かれ、当時は現在のよ

うな1万人を超える規模のイベ

ントではありませんでした。世界最大規模の水会議へと変化していききっかけとなったのは、2003年に日本で開かれた第3回会合です。

日本政府を挙げて、琵琶湖淀川流域という開催地の特性を生かしながら、多彩なステークホルダーを巻き込んだ会議を実現し、その後の世界水フォーラムのモデルとなっています。

世界水フォーラムの場の活用、情報発信は、水循環基本法のもとで策定され、日本の水循環に関する施策の基本となる「水循環基本計画」においても、政府が総合的かつ計画的に講ずべき施策として明記されています。

第10回の開催概要

第10回 WWF の議論構成のイメージ

繁栄を共有するための水

第10回世界水フォーラムのテーマは「Water for shared prosperity」(繁栄を共有するための水)です。プログラムは、政治プロセスにおける議論、テーマ別プロセス、地域別プロセス、そしてエキスポ・フェア(展示会)で構成されています。

政治プロセスでは、国家元首、閣僚、地方首長、議会議員が参加し、それぞれのプロセスで議論を繰り広げます。

テーマ別プロセスは、「繁栄を共有するための水」という主テーマのもとで、Water Security and Prosperity(水の安全保障と繁栄)「Water for Humans and Nature(人類と自然のための水)」「Disaster Risk Reduction and Management(災害リスクの軽減と管理)」「Governance, Cooperation and Hydro-diplomacy(ガバナンス、協力と水外交)」「Sustainable Water Finance(水分野における持続可能なファイナンス)」「Knowledge and Innovation(知識とイノベーション)」の6つのサブテーマに沿って議論を展開していきます。

地域別プロセスは、世界を4つの地域(アジア太平洋、アフリカ、北・中央・南アメリカ、地中海)に分け、地域全体やサブ地域の水に関する優先課題を特定し、解決策の提案や先進実践事例を共有します。地域全体やサブ地域の水課題に対する政治的認知度を高め、地域協力や地域対話を促進することを目的としています。

そしてユース関連プログラムの充実も、第10回世界水フォーラムの特徴になっています。



第10回世界水フォーラムの会場となるバリ・ヌサドゥアコンベンションセンターでは20日からの議論に向けた準備が進む

人類と自然のための水
水の安全保障と繁栄
災害リスクの軽減と管理
協力と水外交
水の革新的なファイナンス
知識とイノベーション
共通の課題: 気候変動、人口増加、都市化、エネルギー危機、土壌・大気汚染等
横断的な目標達成手段: ガバナンス、科学と技術、革新、ファイナンスと投資、協力とパートナーシップ、政策策定、循環型経済、教育・能力開発

政治プロセス

- ・国家元首
- ・閣僚
- ・国会議員
- ・地方自治体
- ・流域自治体

テーマ別プロセス

- ・人類と自然のための水に関するトピック
- ・水の安全保障と繁栄に関するトピック
- ・災害リスクの軽減と管理に関するトピック
- ・協力と水外交に関するトピック
- ・水の革新的なファイナンスに関するトピック
- ・知識とイノベーションに関するトピック

地域プロセス

- ・地中海
- ・米州
- ・アジア太平洋
- ・アフリカ

注目プログラム

第10回の開催に向け、これまでに2回の準備会合が行われてきました(2023年2月・10月)。第10回世界水フォーラムに向けたユースグループの会合もありました。そのような準備過程への参加を含め、日本水フォーラム(JWF)は今回も主要な取組みに携わっています。今年3月、インドネシア公共事業・国民住宅省のエディ・ジュハルシャ官房国際協力局長ら、関係者が来日した際にはJWFを訪れ、開催準備に関する意見交換を行いました。

■地域別プロセス

アジア・太平洋水フォーラムの事務局として、韓国のK-waterが事務局を務めるアジア水会議(AWC)、アジア開発銀行とともに、「アジア太平洋地域プロセス」全体の調整役を務めています。他のサブ地域のコーディネーターと

の協議を主導しながら、各地域特有の水課題に対する解決策、解決に至るまでの施策の取り組みポイントや突破口について、先進事例と共に共有していくための準備を進めてきました。

■テーマ別セッション

サブテーマ4(ガバナンス)と5(ファイナンス)において、トピックコーディネーター・トピックス調整メンバーを務めています。

■エキスポ・フェア(展示会)

今回も日本の産官民学が一堂に会して日本のナショナル・パビリオンを出展します(JWF主催)。テーマは「Sound Water Cycle: Leading to Shared Prosperity」。「繁栄を共有するための水」を導く考え方として、日本が水循環基本法のもとで進める「健全な水循環」への取組みを発信します。23日の夕方には、第10回 WWF の特別協賛者である旭酒造とコラボレーションし、ジャパンナイトを開催し、文化とともに日本の「水」を発信します。

■京都世界水大賞

世界で唯一、途上国の水問題に取り組む草の根団体を表彰する「京都世界水大賞」の表彰式が閉会式で行われます。

日本パビリオン
特設ウェブサイト

(開設期間 2024年5月~2025年3月)

